

2026年教育カウンセリング・オンライン公開講演会 参加者感想アンケートまとめ

秋田県教育カウンセラー協会

2026年8月15日(土) 13:30～15:30

公開講演会テーマ

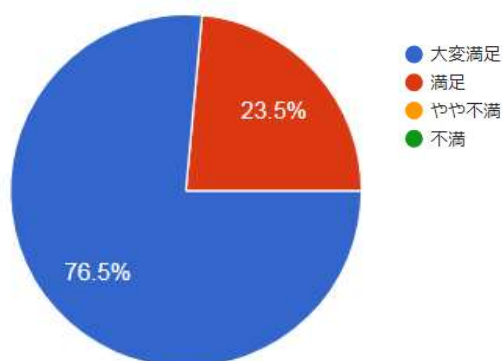
「なぜ子どもは学校に行けなくなるのか

—心療内科医が見てきた真実と、教育現場にできること—

講師：飯島 慶郎先生

(不登校／こどもと大人の漢方・心療内科 出雲いいじまクリニック 院長)

① 公開講演会全般について (回答数17名分)



② 公開講演会会の内容について (回答数17名分)



③ 公開講演会の内容についての感想

✿ 不登校支援において、具体的なご示唆いただき、大変参考になりました。目からウロコなとばかりで、医学的な視点をもつことの大切さを学ぶことができました。ありがとうございます。

✿ 「病気」という視点で不登校の理解が深まりました。カウンセリングと医療の違いや子どもの言葉をどのように捉えるかなど、今後の児童生徒支援の参考になりました。ありがとうございました。

✿ すべてのお話が目から鱗でした。古い認識で子どもたちも教員ももどかしく、苦しい思いをしている現状を変えなければいけないと思います。ここ数年、起立性調節障害と診断され 仕方ないから — とご家庭で何の対策もされないことが多く、疑問をもっていました。適切な治療と対策をすることの必要性を改めて感じました。貴重な学びをありがとうございました。

- ❀ 医療の立場からの見方を学ぶ機会をいただき、大変ありがとうございます。
- 生徒の言動を「医学の言葉に置き換える」というのが、とても興味深かったと同時に、これからの自分に必要になるだろうと思いました。
- 医療と連携しようとする際にも、「医療の言葉に置き換える」視点があるとよりスムーズにいくのかもしれないと期待をしています。今日は、参加させていただきまして、ありがとうございました。
- ❀ 症状と言葉と背景にあるものとの関係が整理され、腑に落ちることがたくさんありました。表面的な症状が軽度で医療的な対処をせず何とか卒業できたりするのは、逆にその後のメンタルヘルスに問題を残す場合もあるのではと恐れを感じました。他国より多い年 30 日以上欠席という基準では、学校からの働きかけもより遅くなり、長引く不調につながるかもしれません。教育と医療の連携について、児童生徒を診ている医師は概して協力的なので、学校から医療の力をもっと積極的に生かそうとするアプローチが必要だと思います。
- ❀ 不登校を「学校に行けない」という行動だけで捉えるのではなく、その背景にあるうつ病、不安障害、発達障害、起立性調節障害などの可能性を含め、子どもの状態を多面的に見ることの重要性を改めて学びました。特に、「休ませれば回復するとは限らない」「様子を見ることにもリスクがある」というお話が印象に残りました。また、診断を単なるラベリングとして本人を責める材料にするのではなく、必要な支援や配慮につなげる「支援の入口」として捉える視点にも深く共感しました。
- ❀ 医療の視点、医療につなげることが支援の第一歩ということが印象に残りました。
- ❀ 不登校支援についてはこれまでいろいろな場でたくさんの先生方から伺う機会がありました。でも今回ほど子どもの言葉・心に寄り添った医療の視点からのお話は初めてでした。大変勉強させていただきました。配付資料をいただいたとき、素晴らしい資料だなと思い当日を楽しみにしてきました。
- まず、子どものつぶやきがたくさん載せられていたことです。しかも症状の段階に応じてスモールステップで配列してあったり、子どもと大人、日本と海外の比較など…。豊かな資料から現実の本当の難しさを受け止めつつ、不思議と子どもに寄りそう自信も湧いてくる具体的な資料と先生のご講演でした。
- 先生がたどってこられた道は決して平坦ではなかったとお話から伺えましたが、それを超えてやさしくしみ込んでくる穏やかな先生の大きさを感じながら講演終了となりました。貴重なお話をありがとうございました。具体的な例は取り上げにくいかもしれませんが、ぜひまた詳しくお伺いしたいと思いました。
- ❀ 本日は、ありがとうございました。不登校になった時によく友達が、担任等が周りの環境について、責められる事が多いですが、一番学校に行けなくなる理由が、(症状)である事に驚きました。子どもたちの眩きにもっと耳を傾けたいと思いました。また、ADHD とうつ病との関係性を知ることができ勉強になりました。
- ❀ 自分の専門性に関係する視点から不登校をとらえることができ、日々保健室でかわる生徒への理解につなげることができました。

❁ 不登校児童についての理解が深まりました。そして発達障害の話が含まれていたの
で、そのことも学びが深まりとてもよかったです。子どものうつについての認識がほと
んどなかったの、いろいろな視点から子どもを見ていこうと思いました。私は通級指
導の担当なので、「めんどくさい」という児童とたくさん関わっているため、その子の
めんどくさいがどのタイプなのかをじっくり見ていこうと思いました。先生の資料の中
にあった、言葉を読む辞書はとても参考になりました。本日はありがとうございました。
本も購入します。

❁ わかりやすい言葉での講義で嬉しく思いました。無気力に見える ADHD について、
“気が向かないことに対して無気力になる”ことがわかりました。面白そうな行事だけ
に参加する生徒さんを不思議に思っていて 他の中でも参加してほしいと思っていまし
た。2 学期からの支援を考えたいと思いました。

❁ 久々にカウンセリング公開講演会に参加させてもらいました。現職ではないので今
の具体的な子どもの姿ではありませんでしたが、かつて出会った子どもたちの様子を
思い描きながらお話を聞かせていただきました。飯島先生の一言一言があの時のあの
表情、あの様子に当てはまると思いました。うつを患ったことがある友人が「ほんと
にだるくて何もする気もなく、食欲もなく苦しくて苦しくてしょうがなかった…」と
言っていました、子どもたちはそのような状態でも伝えるすべをもっていなかった
のでしょうか。「様子を見て」その次の一手を速やかに行えるような体制作りがなされな
ければいけないと感じました。

❁ 子どもたちの発達上の課題を乗り越えるための支援に携わることが多いですが、今
回の飯島先生のご講義を通して、精神医学的な視点を身につけることの重要性を改めて
感じました。

相談を受けた際には、学校と連携しながら環境調整について検討することがありますが
が、今回の講演で示された、病気や障害については「環境を整えるだけでは不十分」と
いう言葉が特に印象に残りました。医療機関とも連携しながら、本人の状態や特性に応
じて、自己理解を深めたり対処スキルを身につけること、心理的な支援を行うことなど、
多面的、包括的に支援していくことの重要性を感じました。

また、支援の場面では「様子を見ましょう」という言葉を使うことがありますが、単
に経過を観察するのではなく、その期間を「次の支援につなげるためのアセスメントと
準備の時間」と捉えることが重要だと感じました。その間に、子どもや保護者が取り組
めることを整理して伝えるとともに、支援者間で情報共有を行い、今後必要となる支援
や介入について検討していくことが大切だと思いました。

発達障害のある児童生徒の相談を受ける機会も多いですが、今回の講演では、特に不
注意優位型 ADHD の子どもの行動特性や支援のあり方について理解を深めることがで
き、大変有意義でした。本人の抱えている困難さを努力不足ややる気の問題と捉えるの
ではなく、実行機能などの特性であると理解し、本人の特性に応じた具体的な支援につ
なげていくことが重要であると再認識いたしました。

今後、発達障害やうつ病、不安障害、特にパニック症のある子どもの理解や、具体的
な支援・対応について、さらに飯島先生からご講義いただく機会があれば、ぜひ学びを
深めたいと思います。

本日は貴重なご講義をありがとうございました。

✿ 高校で教育相談の担当をしていますが、教室に入れない生徒は未だに怠けていると見られる風潮があります。疲れやすく、頑張った後に力尽きることが多く、体力的な問題があると伝えたこともありました。現場では、なかなか医学的な認識ができていないため、不登校の理解が進んでいないと感じました。

✿ 不登校という課題について、医療の立場から、また「体・心・環境」という幅広い視点からお話いただき、とても充実した学びになりました。

不登校の子どもたちは、ときに自分でもうまく説明できないほどの不安や、体が重く感じるようなつらさを抱えているのだと思います。今回のお話では、そうした子どもたちの言葉になりにくい不安を、子どもの立場に立つとどのように感じているのかという形で分かりやすく示していただき、とても参考になりました。

また、子どもの状態を一つの面だけから考えるのではなく、体の状態、心の状態、そして家庭や学校、友人関係など、その子を取り巻く環境を合わせて考えることの大切さを、改めて感じました。

お話を聴いているうちに、以前、私が関わった生徒のことを思い出しました。以下は実際の支援経験をもとにしていますが、個人が特定されないよう、年齢や経過など事例の一部を変更しています。

その生徒は、友人との関係が悪くなったことをきっかけに、約3か月間、学校に行くことができませんでした。その間、私たちは生徒との関わりを途切れさせないように、養護教諭や学年主任と連携しながら、週1回程度の家庭訪問や電話での会話を続けました。無理に登校を求めるのではなく、生徒の様子を確認しながら、学校とのつながりを保つことを大切にしました。そのとき生徒は、「周りのみんなが私を嫌っているように感じる。笑顔で接してくれるけれど、本当はどう思っているのか分からない。誰も信用できない」と話していました。私は当時、この生徒はとても強い不安や、恐怖に近い気持ちを抱えていたのではないかと考えていました。その後、友人との関係が修復すると、生徒は再び元気に登校するようになり、その後は安定して学校生活を送ることができました。私が関わった範囲では、この生徒には精神疾患や発達障害などの診断はありませんでした。

そこで、今回のお話を聴いて、一つ疑問が生まれました。「不安」という気持ちや症状があることと、「不安障害」という病気があることは、どのように区別して考えればよいのでしょうか。また、この生徒のように、ある出来事をきっかけに不安や人への不信感が強くなり、友人との関係が修復されると不登校も改善し、その後は安定して登校できるようになった場合、生物学的な面からはどのように考えればよいのでしょうか。今回、時間の関係で直接お尋ねすることができませんでしたが、先生のお考えを、いつか伺う機会があればと思っています。

本日は、貴重なお話をありがとうございました。

✿ 秋田県教育カウンセラー協会には、時宜を得た、現場ですぐ生かせる内容の講演会を毎年提供いただき、感謝しています。精神医学的なものの見方について勉強もしてきましたが、豊富な臨床経験から端的にまとめられた「子どもの言葉を読む辞書」等、子どもの体や心を主体とした資料、講義が充実していて余計な部分がなく、あっという間に時間が過ぎました。

「不登校の援助に決め手がないからこそ、連携が必要」の言葉が心に残りました。

本日はありがとうございました。

④ オンライン開催に関するご意見やご要望について

- ✿ 夏のこの時期、講演会を開催して下さったことに感謝いたします。有り難うございました。
- ✿ 今年度すでに不登校に関する研修に複数参加しましたが、今回の講演からは、不登校の本質に迫る多くの情報が得られました。時期のせいなのか、オンラインなのに参加人数が意外に少なく、もったいないと思いました。講師の先生のご都合も考慮しながらの日程の調整が難しかったとお察しいたします。
- ✿ 非常に有意義な内容でした。講師の先生のご都合もあることと思いますが、お盆時期ということもあり参加が難しい方もいたのではないかと感じました。開催時期を工夫することで、さらに多くの方に聞いていただける講演になるのではないかと思います。
- ✿ オンラインの講演助かります。資料も事前に、アップしていただきありがとうございます。
- ✿ 本日は、ありがとうございます。地方から参加できるよう、今後もオンラインでの研修を設定していただけると幸いです。よろしく願いいたします。また、研修修了証等を発行していただけますか。検討よろしく願いいたします。
- ✿ オンラインだと、気軽に参加できるのでよいと思いました。
- ✿ オンラインであるため遠方でも参加しやすいと思いました。スタッフのみなさんに感謝しております。ありがとうございました。
- ✿ 急遽、参加させていただきました。参加させていただき、ありがとうございました。
- ✿ 私にいろいろと不手際があり、大変ご迷惑をおかけしました。参加でき、とてもありがたかったです。阿部様、本当にありがとうございました。
- ✿ いつも興味深いテーマで研修を企画してくださってありがとうございます。

⑤ 今後受講したい講座のテーマや講師について

- ✿ 今回の研修会のように、不登校について多面的な視点から研修ができるとうれしいです。
- ✿ 不登校の保護者とどう向き合っていくか、など。
- ✿ 特別支援教育，発達支援

- ✿ 疾患ごとの日常での対応を教えてくださいとお話があるとありがたいです。
- ✿ 援助希求について
- ✿ 学級づくりについて
- ✿ オンラインカウンセリングの実際、実践演習など面接スキルアップのできる研修があれば教育カウンセリングの技能向上につながるのではないかと思います。
- ✿ おまかせします。
- ✿ 学んだ知見を現場で広げたり，理解を進めるためには何ができるか，組織文化の改善に役立つ事があれば学びたいです。

——— 公開講演会に参加された皆様，アンケートへのご協力をありがとうございました。
秋田県教育カウンセラー協会では，皆様方のご期待にお応えできるよう，さらに努力してまいりますので，今後ともご支援，ご協力のほどよろしくお願いいたします。

